

# 2つの魅力を集結し世界に誇る観光ルートをつくろう！ 別府市と阿蘇市がツーリズム交流宣言



▲握手を交わす浜田博別府市長と佐藤市長

阿蘇市と同じく地域通貨事業に取り組み大分県別府市と、通貨の相互利用をきっかけに交流がスタートし、ツーリズム交流宣言がかわされました。

今後、観光都市である両市が互いの自然資源を共有し、全国どこにもない観光ルートを確認し国際競争力をつけていこうというものです。

この式典及びイベントは、7月5日、内牧のホテルで開催され、別府市からも市長ほか、観光協会長、多数のまちづくり団体が参加しました。両市長がツーリズム交流宣言に署名し固い握手をかわした後、両市のまちづくり団体がPRパフォーマンスで会場をわかせ、郷土愛、郷土色あふれたイベントが展開されました。また、7日には別府市国際交流会館で「泉都まちづくり交流会」が、8日は同市竹瓦温泉で「別府・阿蘇ツーリズムサミット」が開催され、阿蘇市から市長はじめ観光協会長、まちづくり団体が参加し、これからの両市の具体的な交流について提案がなされました。

同日、ツーリズム交流を記念した『阿蘇の観光物産展』も別府市国際通りソルパセオで開催。今回は、波野神楽苑のそば・高原野菜の販売、観光パンフの配布や、内牧の竹原憲朗氏のご協力により阿蘇の写真展を開催し、阿蘇市を紹介しました。



▲阿蘇・別府ツーリズム交流宣言式典で発表するまちづくり団体の皆さん



▲竹瓦温泉で行われた「別府・阿蘇ツーリズムサミット」



▲別府市国際通りソルパセオで開催した「阿蘇の観光物産展」

## 地域通貨の相互利用 いよいよスタート

別府市では、阿蘇市の地域通貨で18ヶ所の温泉に入浴することなどができます。相互利用開始により、阿蘇市でボランティア活動をしてもらった地域通貨で別府の温泉を楽しむようになりました。逆に別府のお客さんが阿蘇市にお越しになった時は、あたたかきもてなしで交流を深めていただきたいと思います。

※地域通貨についての詳しい内容はホームページに掲載してあります。別府市のアドレスは広報あそ7月号10ページに掲載しています。

## 阿蘇市と別府市の ツーリズム交流宣言

- 1、両市は、それぞれが持つ歴史・文化・自然・産業を互いに尊重しながら、将来にわたり多面的なツーリズム交流を進めていきます。
- 2、両市は互いの情報交換に努め、世界有数の温泉と火山の観光資源を相乗的に有効活用ながら、国内外の観光客の来訪促進および国際競争力を有する観光地づくりの推進を図っていきます。
- 3、両市のツーリズムの継続的な振興のために、民間レベルでのまちづくり交流を積極的に進めながらまちづくりの人材育成に取り組みます。

# 別府市

別府市は由布・鶴見岳の裾野をなだらかに別府湾へと広がる面積125.295km<sup>2</sup>、人口122,197人の観光都市です。別府八湯と呼ばれる8つの温泉が点在し、温泉の湧出量と源泉数は日本一を誇っています。観光客は年間1,100万人。また、留学生が2,500人暮らすまちでもあり国際交流都市としても成長しています。



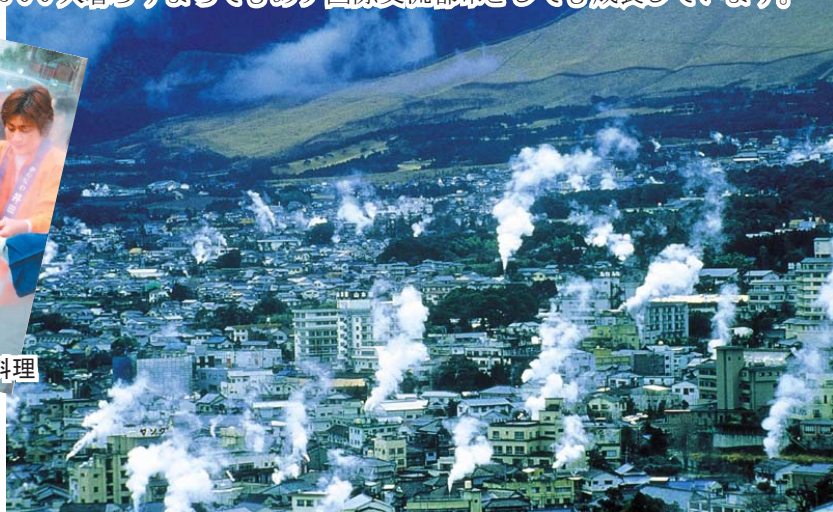
▲別府八湯  
「ゆかた de ピンポン」



▲流しの名物おじさん  
「はっちゃん、ぶんちゃん」  
昭和の名曲奏でて路地裏練り歩き



▲鉄輪地獄蒸し料理



阿蘇・別府ツーリズム交流会に参加して

湯の町ママさんガイド  
岸川 多恵子



7月5日は、あいにくの天気でしたが幸いにかいた雨にならず、やまなみハイウェイのしっとりとした草原は、心地好ドライブ気分でした。阿蘇市での昼食のサイコロステーキ井のお肉は柔らかくておいしかった。旅をしている時の一番の印象は「食」!

阿蘇プラザホテルで交流会があり、指定された席の私の両脇には阿蘇市の関係者の方で早速名刺交換をしてわずかな時間でしたが濃密な会話? 「二日後には絶対別府で会いましょう」と約束。別府のまちづくり関係者の自己紹介があり私は「別府温泉道名人」を黒タオル持参でPR。世界に誇る「温泉地」と「カルデラ」。お互いにこの恵まれた環境をいかに守り伝えるかが、私たち両市の「テーマ」。私は、平成9年の10月に原付バイクで阿蘇路を走りました。日本全国を走り終えて一番印象に残る「道」は阿蘇路。黄金に輝く草原を小さなバイクの私は鳥になり「神々のいるまち阿蘇」を実体験したのです。神様に依怙最厚されている「阿蘇・別府」これからもよろしくお願いたします。

湯の町ママさんガイドとは…

別府のまちをこよなく愛しているママさん達が、別府のまちを道案内したり、さらに重い荷物があつたら預かってくれるし、トイレも貸してくれる。

自宅に居ながらにして、観光客を365日案内しています。

別府の元気は人にある

『別府はやはり、海から入り海から出て行くところらしい』  
小説「菩提樹」(丹羽文雄作)より

NPO法人 わらべ 代表 日高 清志



港は海をわたる人々の大切な「足」であり、人とともに文化も運ばれ、船のつく港は、さまざまな地域の文化をはぐくみながら街を形づくってきました。このように街と共に歩んできた港ですが、かつての賑わいなく空洞化しています。

別府湾周遊ゆうぐれ散歩は

- ・港まつりをはじめ、海や港にちなんださまざまなイベントの立案
- ・ショッピングを楽しむ場としても、港のある空間がにぎわいの輪を広げる環境づくり。
- ・人が集まり、遊んだりできる港の姿を目指した「港の再開発」
- ・港が街のシンボルとなって、人々が集う賑わいの中心となる港の再開発などを目的として7月14日にスタートいたしました。海から見た別府の景観を多くの方に再認識していただき、次の世代の子どもたちに伝えていこうという企画です。

「町づくりは人づくり」私が町づくりに関わり一番感じる点は、町を愛する心と人とのネットワークです。泉都まちづくりネットワークの交流会では、意見交換や色々な分野を知る機会になっています。阿蘇の皆さんもぜひ、別府湾周遊ゆうぐれ散歩、温泉、景観をご堪能ください。

特定非営利活動法人わらべ…子どもの交流、子育て環境の充実、地域づくりに取り組む団体。別府八湯フラワーロードegaoネット(別府花ねっと)やエコ活動にも取り組む。

＜別府湾周遊ゆうぐれ散歩＞

土・日曜、祝日運行。出発時刻 15:30～ 受付 14:40～  
問い合わせ NPO法人わらべ 0977-26-3422  
予約受け フェリ-さんふらわ 0977-22-1311

